

2025

生産性向上委員会 議事録

2024/7 定例会議

参加者

- (1)「利用者の安全及びケアの質の確保」について
- (2)「職員の負担の軽減及び勤務状況への配慮」について
- (3)「介護機器の定期的な点検」について
- (4) 職員に対する研修について

2024/6 定例会議

参加者

- (1)「利用者の安全及びケアの質の確保」について
- (2)「職員の負担の軽減及び勤務状況への配慮」について
- (3)「介護機器の定期的な点検」について
- (4) 職員に対する研修について

2024/5 定例会議

参加者

- (1)「利用者の安全及びケアの質の確保」について
- (2)「職員の負担の軽減及び勤務状況への配慮」について
- (3)「介護機器の定期的な点検」について
- (4) 職員に対する研修について

2024/4 キックオフ会議

参加者

- (1)「利用者の安全及びケアの質の確保」について
- (2)「職員の負担の軽減及び勤務状況への配慮」について
- (3)「介護機器の定期的な点検」について
- (4) 職員に対する研修について

2024/4/8 リーダー会議

参加者

議事録ルール

- (1)「利用者の安全及びケアの質の確保」について

① 見守り機器等から得られる離床の状況、睡眠状態やバイタルサイン等の情報を基に、介護職員、看護職員、介護支援専門員その他の職種が連携して、見守り機器等の導入後の利用者等の状態が維持されているか確認すること。

② 利用者の状態の変化等を踏まえた介護機器の活用方法の変更の必要性の有無等を確認し、必要な対応を検討すること。

③ 見守り機器を活用する場合、安全面から特に留意すべき利用者については、定時巡回の実施についても検討すること。

④ 介護機器の使用に起因する施設内で発生した介護事故又はヒヤリ・ハット事例（介護事故には至らなかったが介護事故が発生しそうになった事例をいう。）（以下「ヒヤリ・ハット事例等」という。）の状況を把握し、その原因を分析して再発の防止策を検討すること。

（2）「職員の負担の軽減及び勤務状況への配慮」について

実際に勤務する職員に対して、アンケート調査やヒアリング等を行い、介護機器等の導入後における次の①から③までの内容を確認し、適切な人員配置や処遇の改善の検討等が行われていること。

① ストレスや体調不安等、職員の心身の負担の増加の有無

② 職員の負担が過度に増えている時間帯の有無

③ 休憩時間及び時間外勤務等の状況

（3）「介護機器の定期的な点検」について

次の①及び②の事項を行うこと。

① 日々の業務の中で、あらかじめ時間を定めて介護機器の不具合がないことを確認するなどの不具合のチェックを行う仕組みを設けること。

② 使用する介護機器の開発メーカー等と連携し、定期的に点検を行うこと。

（4）職員に対する研修について

介護機器の使用方法の講習やヒヤリ・ハット事例等の周知、その事例を通じた再発防止策の実習等を含む職員研修を定期的に行うこと。

また、加算（I）を算定するに当たっては、上記に加え、職員間の適切な役割分担（利用者の介助に集中して従事する介護職員を設けることやいわゆる介護助手の活用等）による業務の効率化等を図るために必要な職員研修等を定期的に実施すること。

議題

1. 課題分析（見える化）・役割の明確化と役割分担・導入するテクノロジー等の検討
2. 役割分担の見直しやシフトの組替の検討、テクノロジー等を導入する範囲や使用者の検討
3. 生産性向上の取組に関する実行計画の検討・策定
4. 導入したテクノロジー等の使い方に対する教育・研修の実施
5. テクノロジー等の使い方の改善に関する検討
6. テクノロジー等を活用したケアの改善に関する検討
7. 導入したテクノロジー等の効果検証（職員や利用者の観点からの課題・効果等の情報の共有）

8. ヒヤリハット・事故防止のための検討
9. その他、法人または施設・事業所で必要と判断した事項

2026

生産性向上委員会 議事録

2026/7 定例会議

参加者

- (1)「利用者の安全及びケアの質の確保」について
- (2)「職員の負担の軽減及び勤務状況への配慮」について
- (3)「介護機器の定期的な点検」について
- (4) 職員に対する研修について

2026/6 定例会議

参加者

- (1)「利用者の安全及びケアの質の確保」について
- (2)「職員の負担の軽減及び勤務状況への配慮」について
- (3)「介護機器の定期的な点検」について
- (4) 職員に対する研修について

2026/5 定例会議

参加者

- (1)「利用者の安全及びケアの質の確保」について
- (2)「職員の負担の軽減及び勤務状況への配慮」について
- (3)「介護機器の定期的な点検」について
- (4) 職員に対する研修について

2026/4 定例会議

参加者

- (1)「利用者の安全及びケアの質の確保」について
- (2)「職員の負担の軽減及び勤務状況への配慮」について
- (3)「介護機器の定期的な点検」について
- (4) 職員に対する研修について

議事録ルール

(1)「利用者の安全及びケアの質の確保」について

- ① 見守り機器等から得られる離床の状況、睡眠状態やバイタルサイン等の情報を基に、介護職員、看護職員、介護支援専門員その他の職種が連携して、見守り機器等の導入後の利用者等の状態が維持されているか確認すること。
- ② 利用者の状態の変化等を踏まえた介護機器の活用方法の変更の必要性の有無等を確認し、必要な対応を検討すること。
- ③ 見守り機器を活用する場合、安全面から特に留意すべき利用者については、定時巡回の実施についても検討すること。
- ④ 介護機器の使用に起因する施設内で発生した介護事故又はヒヤリ・ハット事例（介護事故には至らなかったが介護事故が発生しそうになった

事例をいう。)(以下「ヒヤリ・ハット事例等」という。)の状況を把握し、その原因を分析して再発の防止策を検討すること。

(2)「職員の負担の軽減及び勤務状況への配慮」について

実際に勤務する職員に対して、アンケート調査やヒアリング等を行い、介護機器等の導入後における次の①から③までの内容を確認し、適切な人員配置や処遇の改善の検討等が行われていること。

- ① ストレスや体調不安等、職員の心身の負担の増加の有無
- ② 職員の負担が過度に増えている時間帯の有無
- ③ 休憩時間及び時間外勤務等の状況

(3)「介護機器の定期的な点検」について

次の①及び②の事項を行うこと。

① 日々の業務の中で、あらかじめ時間を定めて介護機器の不具合がないことを確認するなどの不具合のチェックを行う仕組みを設けること。

② 使用する介護機器の開発メーカー等と連携し、定期的に点検を行うこと。

(4) 職員に対する研修について

介護機器の使用方法の講習やヒヤリ・ハット事例等の周知、その事例を通じた再発防止策の実習等を含む職員研修を定期的に行うこと。

また、加算(Ⅰ)を算定するに当たっては、上記に加え、職員間の適切な役割分担(利用者の介助に集中して従事する介護職員を設けることやいわゆる介護助手の活用等)による業務の効率化等を図るために必要な職員研修等を定期的に実施すること。

2027

